

II. 安達太良・迷沢 (1975.8.8~9)

参加者. CL. 等

8月8日晴、初めての沢で、所要時間がわからないので出合にビバークして、朝から沢をつゆのようということになった。西さんの奥さんが運転する車で高森川の橋まで送ってもらう。迷沢の少し手前でビバークする。ボンボンの中にもぐりこむが、寒気団のほり出しのため非常に冷えこみ、なかなか寝つかれない。

8月9日晴、朝食をとり、5時半に沢に入る。歩きはじめてすぐ、80mほどのナメが続く。その後何んの変化のないだらだらした感じで進むと、右岸に「ホールグ」の跡が見られ、小さな小屋がある。この辺は高度差もなくおもしろくない。F10、F6と滝が連続するあたりから、少しづつ変化が見られ、「まもなく滝が見られるぞ」と西さんが言うと、5m程の滝が現われ、西さんの感が今日はよく当る。F11をこえるとナメが続きはじめ、途中沢が分かれている。水の流れている方が支流で、支流を少し入ると15mほどのすばらしい滝があり、ここで水の補をする。本流にもどり、涸れたナメを登る。ここからは今までと感じが違い、急勾配になってくる。先に進むと20mの大きな滝に行き当る。途中まで直登し、ハーケンが打ってある手前から左にトラバースし、準付きと岩の境を登る。そこで小休止。これから先もものすごく急勾配で、雨が降れば滝になりそうだ。F14は30m以上ある滝で、2段になっている。最初、西さんが直登してみたが、ホールドがなく、途中からひきかえし、左岸のブッシュを巻くことにした。ブッシュの中を急だが、なんとか登り途中からブッシュの中をトラバースして滝の途中に出ると、そこからなら直登できる。

滝が終わると平らになり、岩の上で小休止。いっぺんに高度をかせいでしまったのにはびっくりする。次にびっくりするのは大きな岩で、ここは岩の隅を通ったり、下を滑ったり、やみの中を歩きつづけ、最後に岩の上に出る。ここから先はすごいブッシュで沢にそってこぎ続けるが、途中から尾根筋の方がブッシュが低いので、尾根(左岸)に上

り、約1時間ブッシュの中を歩き、胎内岩からの登山道に合流、銚山の避難小屋に到着する。銚山で昼食をとり、くろがね小屋でラーメンを食べて塩沢に下る。

〈コースタイム〉

8月8日 福島(19.45) ~~車~~ 橋(20.45) — ビバーク地点(迷沢)(20.55)

8月9日 迷沢(5.30) — 銚山(10.30, 11.00) — くろがね小屋
(11.35, 12.25)

— 入幡滝(12.55, 13.10) — 塩沢(13.55, 14.25) —

~~バス~~ 二本松(15.20, 15.36) ~~バス~~ 福島(16.21)

(元)

八. 吾妻・小倉川。(1975.8.17)

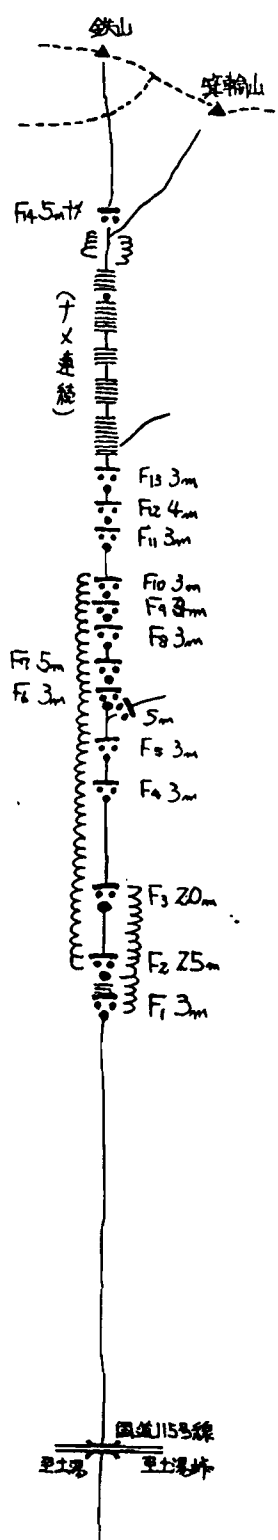
Li

非)

福島発6時5分、小雨が途中より本降りとなる。蒲谷地登山口から少し入った所まで車で送ってもらふ。小倉川出谷の途中で道をまちがえてもどる。沢登り始の8時5分、一時雨が止んだが、また降りだしてきた。はじめて変りのない沢で、飛石伝いに進む。30分程度歩いたら、途中まちがえた道と通じる道があった。ここから沢をつめることもできる。あまり変化がなく2~3mの小滝が続く。9時10分頃銚山跡らしい所があり、ここから20分後5mの滝があり、「滝らしい滝があった」と喜び、写真をとる。その後、7mの滝は左岸を直登。滝らしい滝とはこの2つ位のものだった。

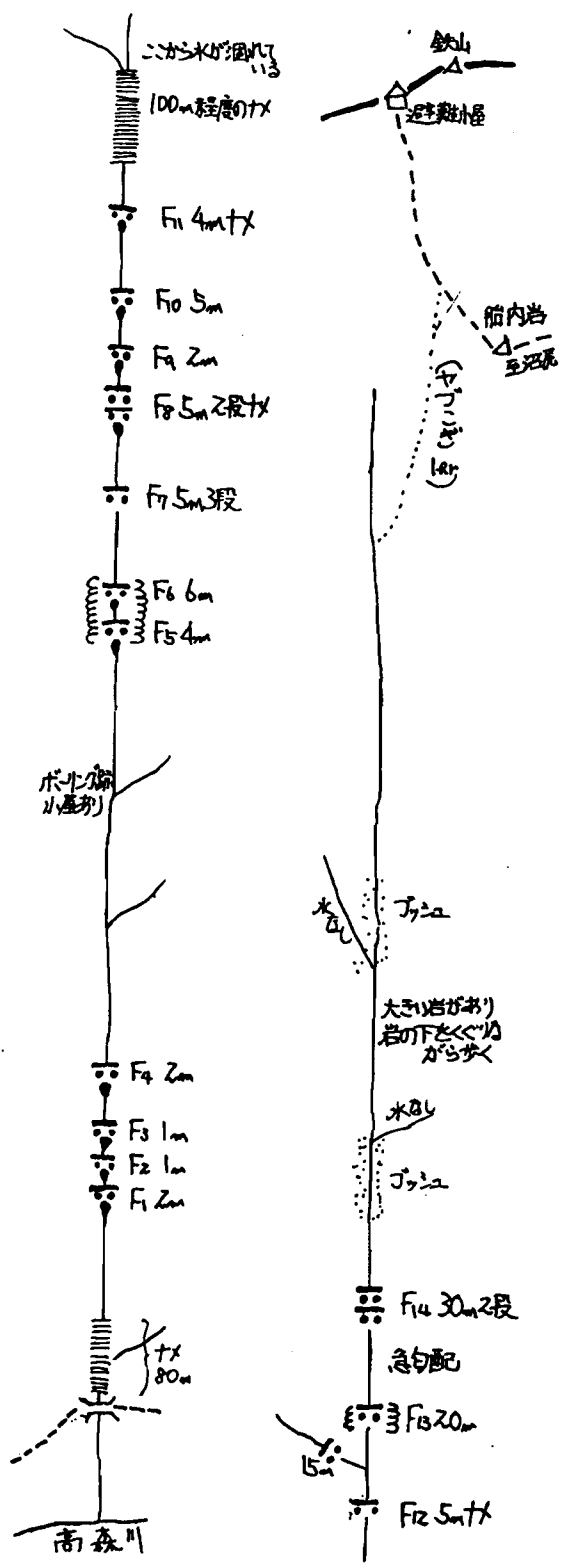
原流の近くなると、濁沢となり、すごいゴーロ状になった大きな岩がたくさんあって急に高度をかせぐ。ゴーロが終るとヤブこぎである少量の水が流れ、その上をブッシュがおおっている。それをかき分けながら前進。ガスがかかり、景場平が確認できず通り過ぎてしまう。東吾妻に向っていることが確認できたので、そのままヤブこぎを続け登山道に出る。山頂より、姥ヶ平を経て浄土平へ。15時のバスで福島に帰る。

滝さのものは小滝ばかりだったが、流れには変化に富み、目を楽しませてくれた。また、この沢はすべりやすく、大変神経を使ったこと



東鴉川

(作図：西和文)



迷沢

(作図：加原功)